

家庭礼拝ガイド 365 日－12月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
12/1	ローマ 5:8	ローマ 5:8	私たちがまだ罪人であったとき
12/2	ローマ 8:28	ローマ 8:28	すべてのことを働かせて益に
12/3	ローマ 8:37～39	ローマ 8:39	神の愛から引き離すものはない
12/4	ローマ 10:9～10	ローマ 10:10	信仰告白
12/5	ローマ 12:1～2	ローマ 12:2	この世と調子を合わせてはいけません
12/6	ローマ 12:10	ローマ 12:10	兄弟愛をもって互いに愛し合う
12/7	ローマ 12:11	ローマ 12:11	霊に燃え、主に仕えなさい
12/8	ローマ 12:12	ローマ 12:12	望みを抱いて
12/9	ローマ 12:13	ローマ 12:13	旅人をもてなす
12/10	ローマ 12:14	ローマ 12:14	迫害する者を祝福しなさい
12/11	ローマ 12:15	ローマ 12:15	喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣く
12/12	ローマ 12:19～21	ローマ 12:21	善をもって悪に打ち勝ちなさい
12/13	ローマ 14:8	ローマ 14:8	生きるにしても死ぬにしても
12/14	ローマ 15:1～2	ローマ 15:2	隣人を喜ばせる
12/15	I コリント 1:18	I コリント 1:18	十字架のことばは神の力
12/16	I コリント 3:6～7	I コリント 3:7	成長させたのは神
12/17	I コリント 6:19～20	I コリント 6:20	神の栄光を現しなさい
12/18	I コリント 9:24-27	I コリント 9:24	賞を受けられるように
12/19	I コリント 10:13	I コリント 10:13	試練と共に脱出の道も
12/20	I コリント 11:1	I コリント 11:1	私を見ならってください
12/21	I コリント 12:12～27	I コリント 12:27	キリストのからだ
12/22	マタイ 1:18～25	マタイ 1:20b	ヨセフへの告知
12/23	ミカ 5:2	ミカ 5:2	救い主の誕生
12/24	ルカ 2:15～20	ルカ 2:20	最初のキャロリング
12/25	ピロピ° 2:6～11	ピロピ° 2:11	人となられた神の子
12/26	I コリント 13:1～8	I コリント 13:4	愛は
12/27	I コリント 13:13	I コリント 13:13	信仰、希望、愛
12/28	I コリント 15:9～10	I コリント 15:10	最も小さい者さえも
12/29	I コリント 15:58	I コリント 15:58	いつも主のわざに励みなさい
12/30	II コリント 1:4～6	II コリント 1:4	神さまの慰め
12/31	II コリント 3:16～18	II コリント 3:18	栄光から栄光へ

12月1日

テーマ：「^{つみびと}私たちがまだ罪人であったとき」

^{せいしよかしよ}聖書箇所：^{てがみ}ローマ人への手紙^{しょう}5章^{せつ}8節

◆今日のみことば

しかし^{つみびと}私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、^{かみ}神は^{たい}私たちに^{じしん}対するご自身の^{あい}愛を^{あき}明らかにしておられます。

^{びと}ローマ人への手紙^{てがみ}5章^{しょう}8節^{せつ}

◆メッセージ

あなたの^{りやうしん}両親のことを^{かんが}考えてみてください。もし、あなたが^{りやうしん}両親の言うことを聞けなかったり、わがママを^い言ったり、^{きやうだい}兄弟げんかをしたり、^{とも}友だちと^{わる}悪いことをして^{あそ}遊んだりしたら、あなたの^{りやうしん}両親は怒りますか。怒ると思います。でも、どんなに^{おこ}怒っても、ある^{ことば}言葉を言えるならゆるしてくれるのではないのでしょうか。神さまはそのための^{すてき}素敵な^{ことば}言葉を与えてくださっています。それは「ごめんなさい」です。とっても^{すてき}素敵でとっても^{だいじ}大事な^{ことば}言葉です。あなたの^{りやうしん}両親はあなたのことを^{あい}愛しているので、心から「ごめんなさい」とあやまればゆるしてくれることでしょう。お父さんも、お母さんも、あなたのことをゆるしたいと^{おも}思っているからです。

今日のみことばを読むと、神さまはあなたの^{りやうしん}両親よりも、もっと^{おお}大きな^{あい}愛であなたを^{あい}愛してくださっていることがわかります。それは、イエスさまはあなたの^{つみ}罪をゆるすために2000年も前に^{じゅうじか}十字架にかかってくくださったことです。つまり、あなたが「ごめんなさい」をするより、ずっとずっとずっと前に、イエスさまはあなたの代わりに^{じゅうじか}十字架にかかって死んで、あなたの^{つみ}罪をゆるしてくださったのです。神さまはあなたのことが^{だいす}大好きなので、ひとりの子であるイエスさまをあなたの代わりに^{じゅうじか}十字架につけてくださいました。イエスさまもあなたのことが^{だいす}大好きなので、あなたの代わりに^{じゅうじか}十字架にかかってくくださったのです。

神さまは、イエスさまの^{じゅうじか}十字架を用意して、ゆるしたいと^{まち}待っていてくださいます。神さまとイエスさまのゆるしは、あなたが「ごめんなさい」をするより先に与えられているのです。これが^{かみ}神さまとイエスさまの^{あい}愛なのです。その^{あい}愛に心から^{かんじや}感謝をして「ごめんなさい」をしていくのが私たちなのです。



◆お祈り

「^{かみ}神さま、私たちがごめんなさいをする^{まえ}前に、イエスさまが^{じゅうじか}十字架で私たちの^{つみ}罪をゆるしてくださったことを^{かんじや}感謝します。」

(千種キリスト教会牧師 畑田祐二)

12月2日

テーマ：すべてのことを働かせて益に
聖書箇所：ローマ人への手紙 8章28節

◆今日のみことば

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。
ローマ人への手紙 8章28節

◆メッセージ

あなたが通っている教会が所属する、日本同盟基督教団が、日本宣教を始めた最初のお話をしましょう。

教団創設者のフレデリック・フランソンは、まだ福音が充分伝わっていない日本へ宣教師を送ろうと、15人の青年をアメリカから送り出しました。1891年（明治24年）のことです。ところが、この宣教師たちに大きな試練がありました。



宣教師たちが来日（日本に来ること）してから、僅か3か月後、一人の宣教師が天然痘にかかって亡くなってしまいました。この人はメリー・エングストンという独身女性、なんとまだ19歳の若さでした。本当に無念（残念でならないこと）だったでしょう。「あの異教（イエスさまのことを知らない）の国、日本に福音を届けよう、あの人たちも救われなければ

ならないから。」エングストンは日本宣教に燃えてはるばる海を越えて来たのに、まだ日本語を学んでいる最中に病に倒れ、天国に帰ったのです。

神さまのご計画とはいったい何なのでしょう。彼女は日本に来なければ、天然痘にかかる事もなかったでしょう。19歳で死ぬ事もなかったでしょう。将来結婚して幸せな家庭を作る事もできたでしょう。伝道の最中に倒れたのなら彼女も少しは満足だったことでしょう。しかしまだ日本で福音を語り出す前に病で亡くなったのです。悔しかったでしょう。アメリカには祈りをもって彼女を送り出した親、兄弟がいます。遠い国の宣教のために彼女を手放した家庭の悲しみは計り知れません。

しかし、彼女の死は無駄ではありませんでした。残された14名の宣教師は彼女の死によって大いに奮い立たされたのです。葬儀の二日後にエングストンの記念会が行われましたが、この記念会は残された宣教師の派遣式となったのです。この日を境に14名は日本全国に散り宣教がスタートしたのです。

エングストンの死はまさに一粒の麦の死でした。この一粒の麦を通して、教団が生み出され、私たちが通う教会も支えられるようになったのです。目の前の苦しいできごとだけで、がっかりしたり、あきらめたり、神さまを疑わないようにしましょう。神さまは、すべてを働かせてよきことをしてください。

◆お祈り

「神さま、私たちは涙が流れるような悲しい経験をします。けれども神さまは、それを用いて新しいことをする力をお持ちです。そのことを信じ、涙を拭いて、もう一度立ち上がっていきましょう。」
（中野教会牧師 河村 研）



12月3日

テーマ：「神の愛から引き離すものはない」

聖書箇所：ローマ人への手紙8章37節～39節

◆今日のみことば

私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちが引き離すことはできません。
ローマ人への手紙8章39節

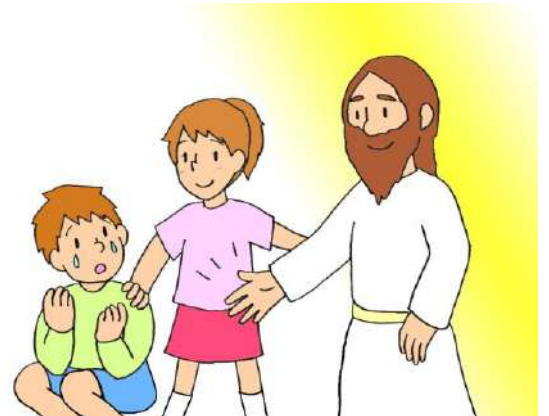
◆メッセージ

人からいやなことを言われたことがありますか。そんなとき、悲しくなってしまうよね。パウロさんはイエスさまのことを多くの人に伝える働きをしていました。そして、ときどき、「イエスさまのことを人に伝えてはいけません。」と反対されることがありました。パウロさんは悲しくなっていて、イエスさまのことを伝えるのをやめたでしょうか。そうではありません。どんなに悲しいことやつらいことがあっても、イエスさまのことを伝える力はなくなりませんでした。神さまの愛がパウロさんのところをいつも元気にしてくれていたからです。

私の友だちは、小学生のころみんなからいじめを受けていました。悲しくなっていて元気をなくしてしまいそうになりました。けれどもすぐに元気になりました。お母さんの愛をいつもころの中に感じていたからだに私に教えてくれました。愛されていることがわかるとき、私たちは悲しいことや苦しいことを乗り越える力が与えられるんですね。イエスさまを信じている人のころの中には、いつもイエスさまの愛が入っています。どんなに苦しいことや悲しいことがあっても、あなたのころから神さまの愛がはなれてしまうことはありません。

イエスさまは私たちの罪をゆるすために、十字架にかかって命を捨ててくださいました。命を捨てて愛してくださっています。この愛は、尽きることがありません。この愛は、奪われることがありません。どんな中になっても、離れることはありません。

ころが元気をなくしてしまいそうになるときにこそ、神さまのこの約束のことは忘れないようにしましょう。



◆お祈り

「悲しいことや、つらいことがあっても、神さまの愛が私のころを元気にしてくれることを感謝します。」

(長良キリスト教会牧師 増田由夫)

12月4日

しんこうこくはく
テーマ：「信仰告白」

聖書箇所：ローマ人への手紙10章9節～10節

◆今日のみことば

人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

ローマ人への手紙10章10節

◆メッセージ

何かをがんばってできるようになったことはありますか。がんばって練習して、自転車に乗れるようになったり、鉄棒のさか上がりができるようになったことがあるかもしれません。でも、がんばってもどうにもできないことがあります。それは私たちの「救い」です。どうすれば救われるのでしょうか。どうすれば、神さまの子どもになり、「永遠のいのち」をいただき、いつまでも神さまといっしょに生きることができるのでしょうか。ある人はこう考えます。〈まじめに生きていればいいんだ〉またこう考える人もいます。〈ずっと教会に通っていれば救われるんだ〉またある人は考えます。〈きまりを守って、いい子にしていれば救われるんだ〉。

でも、聖書が教えていることは、自分の力で罪をゆるされ、神さまの子どもとなり、永遠のいのちをいただくことができる人は一人もないということです。なぜなら、私たちは神さまから離れた罪人だからです。それはちょうど、深い穴ぼこに落ちた人に似ています。穴ぼこに落ちた人は、誰かに助けてもらわなければ、穴から出ることはできません。それと同じように、罪人である私たちはどんなにがんばっても、自分の力で自分を救うことはできないのです。

私たちが救うことができるのは、神さまだけです。イエスさまは主（神さま）です。イエスさまはあなたを救うために十字架に架かって死なれ、三日目に死者の中からよみがえってくださいました。

だから私たちに必要なことは、イエスさまが死からよみがえられた主（神さま）であると信じ、イエスさまを心から信頼すること。信じたことを自分の口で言い表す（告白する）ことです。教会で洗礼式を見たことがありますか、洗礼は神さまへの信仰を口で言い表す（告白する）すばらしい時です。

いまあなたは、イエスさまが死からよみがえられた主（神さま）であることを信じていますか。イエスさまに心から信頼していますか。もっといい子になってから、とか、もっと大人になってから、なんて考えなくていい。そのままの姿で信じてよいのです。

◆お祈り

イエスさまは主（神さま）ですと心から信じることができるよう。信じたことを口で言い表すことができますように。



（長良キリスト教会牧師 沖野 毅）

12月5日

テーマ：「この世と調子を合わせてはいけません」

聖書箇所：ローマ人への手紙12章1節～2節

◆今日のみことば

この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何がよいことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。ローマ人への手紙12章2節

◆メッセージ

みんなは、友達と遊んでいる時、お母さんや学校の先生に「行ってはいけません」と言われている場所に行ったり、「してはいけません」と言われたことをしてしまったことはないでしょうか？「本当はいけないことなんだけど、周りの友達がしているから僕も（私も）してしまった」ということがあるかもしれません。間違っているとわかっていても、自分だけ他の人と違うことをするのは勇気のいることです。

けれども、今日のみことばは、「この世と調子を合わせてはいけません」と言っています。それは、みんながしているからとか、バカにされたり悪口を言われるのが、恐いからといって、他の人たちと一緒に神さまを悲しませることをしないように、ということです。他の人が何を言っても、何をしていても、神さまに喜ばれることが何かを考えて行動するように言われているのです。



「そうしないと、神さまに怒られてしまうぞ」というものではありません。私たちが神さまに喜ばれる生き方をするのは、「神のあわれみのゆえに」（1節）とあるように、まず神様が私たちを愛してくださったからです。神さまは、私たちが罪を持ったまま滅びることのないように、私たちの代わりにイエスさまを十字架につけ、私たちを救ってくださいました。それほどまでに私たちを愛してくださった神さまの愛に応えるために、私たちは神さまの喜ばれる生き方をするのです。

それでも、やっぱり他の人と違うことをする勇気は出ないと思うかもしれません。そんな人は、神さまに「神さまの喜ばれることができるように僕を（私を）変えてください」とお祈りしましょう。そして、

たくさんみことばを覚えましょう。2節の最後に「心の一新によって自分を変えなさい」とありますが、これは私たちががんばるだけでなく、お祈りをしてみことばを聴く中で、聖霊なる神さまが私たちを変えてくださることを意味しています。聖霊の助けをいただいて、神さまに喜ばれる毎日を過ごしましょう。

◆お祈り

聖霊なる神さま、神さまに喜ばれる生き方ができるように私を変えてください。

（徳丸町キリスト教会伝道師 中谷献一）

12月6日

きょうだいあい たが あい あ
テーマ：「兄弟愛をもって互いに愛し合う」

せいしよかしよ てがみ しょう せつ
聖書箇所：ローマ人への手紙12章10節

◆今日のみことば

きょうだいあい こころ たが あい あ さんけい たが ひと じぶん おも
兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いを人を自分よりまさっていると思いなさい。

ローマ人への手紙12章10節

◆メッセージ

たが あい あ たが さんけい おも
互いに愛し合いなさいと互いに尊敬をもってまさっていると思いなさいということばです。

わたしたちはお互いを必要としています。一方的に愛したり、一方的に尊敬をもって相手がすぐれていると考えるのはむずかしいことです。お互いに愛したり、尊敬をすることが大切です。兄弟愛とは兄弟どうしの愛だけでなく、お友だちや家族にも用いる愛のことです。この兄弟愛は神さまからの与えられる愛が元になっています。そして、互いに、ということは、だれでもこの命令を守ることができるということです。神さまの愛は、すべての人に与えられていますから。



神さまからの愛には差別がありません。あなたにもあなたの家族にもお友だちにも、ときどきいじめをするお友だちにも注がれています。どのように愛してくれましたのでしょうか？ それは聖書によるとイエスさまがわたしたちの罪を赦すために身代わりに死んでくださったということです。あなたに悪口をいう人やいじわるをする人を、愛したり尊敬するのは、なかなかむずかしいのですが。イエスさまはイエスさまにいじわるをする人のためにも罪を背負って十字架にかかって死んでくれました。ここに愛があるといわれています。きっと私たちの周りにも、いじわるをする人やわがままの人がいるかもしれません。あなたもときどきわがままで、おともだちの悪口をいうことがあるかもしれません、それでもイエスさまは私たちのことを大切に思い、愛しています。そのことを忘れな

いで、お互いに愛し合い、尊敬しあうことができれば感謝ですね。お互いに愛したり、親切にしたり、尊敬したりすることにより、いじめや怒り、差別が少なくなっていくます。

きょう いちにち おこな あい
今日も一日、しんせつなことばや、行いにより愛することができるようにしましょう。

◆お祈り

愛する天のお父さま、わたしを愛し大切にしてくれてありがとうございます。お友だちや家族を大切にできるようにお守りください。

(近江聖書教会牧師 石川秀和)

12月7日

テーマ：「^{れい も しゅ つか}霊に燃え、主^{しゅ}に仕えなさい」

聖書箇所：ローマ人への手紙^{しょう}12章^{せつ}11節

◆今日のみことば

^{きんべん おこた}勤勉で怠^ならず、^{れい も}霊に燃え、^{しゅ つか}主に仕えなさい。

^{てがみ}ローマ人への手紙12章11節

◆メッセージ

^{まいにち す なか なに}毎日、過^なごす中で何か心を打ち込んでやっていますことがありますか。あるとしたらそれは何でしょうか。

^{きょう せいしよかしよ}今日の聖書箇所は、パウロさんがローマの^{きょうかい ひとびと あ}教会の人々に当てた手紙ですが、その中で、パウロさんは^{きんべん おこた}勤勉で怠^ならず、^{れい も}霊に燃え、^{しゅ つか}主に仕えなさいと勧めています。霊に燃えるとは、何かを心^こを打ち込んで行^{おこな}う、すなわち熱心^{ねっしん}に行^{おこな}うことです。ですから、言い換えれば「みなさん、自分^{じぶん}がなすべきことをまじめ^{おこな}に行^{おこな}ってください。い。神さまに言われていることを熱心^{ねっしん}に行^{おこな}ってください。」となるのでしょうか。

パウロさんがこう言われたのは、ローマの^{きょうかい}教会に自分のやるべきことや教会での奉仕^{ほうし}を誠実^{せいじつ}に行^{おこな}わなかったり、喜^{よろこ}んでしなかったりする人がいたからだと考えられます。そのために教会の他の人に迷惑^{めいわく}をかけ、神さまを悲しませることがあったしょう。

しかし、パウロさんは神さまを信じて心^{こころ}から受け入れた人は、神さまと人を愛して、喜^{よろこ}ばれることを熱心^{ねっしん}に行^{おこな}うと言います。そのために、聖霊さまはいつも共にして何をするべきか教えて行^{おこな}えるように助けてくださいます。

それでは、私たちが日々、心を打ち込んで行^{おこな}うべきことは何でしょうか。学校で先生のお話^{はなし}をよく聴くこと、友だちと仲良^{なかよ}く過^すごすこと、助けを求める友だちを喜^{よろこ}んで助けること、家でお母さんのお手伝い^{てつだ}をすること、教会学校で心^{こころ}から祈り、賛美^{さんび}すること…など、たくさんあります。使徒の働

きに出てくるアポロさんは、神さまを信じる人で、とても熱心^{ねっしん}にイエスさまのことを伝える人でした。そんなアポロさんによって周りのクリスチャンたちは励まされ、イエスさまのことを知る人も起^{おこ}されました。

今、心^{こころ}を打ち込んでやっていたことがあるのでしょうか。それは、神さまと人を愛して喜^{よろこ}ばれることでしょうか。お祈りして思い出すことがあれば、これから熱心^{ねっしん}に行^{おこな}って行きましょう。

◆お祈り

神さまと人を愛して喜^{よろこ}ばれることを聖霊さまの助けをいただいて熱心^{ねっしん}に行^{おこな}うことができますように。

^{きょうと きょうかい かとう ひよな}(京都めぐみ教会 加藤 賢娥)



12月8日

テーマ：「^{のぞ}望^{いだ}みを抱いて」

せいしょかしよ 聖書箇所：ローマ人への手紙^{てがみ}1^{しょう}2^{せつ}章12節

◆今日のみことば

^{のぞ}望^{いだ}みを抱いて喜^{よろこ}び、患難^{かんなん}に耐^たえ、絶^たえず祈^{いの}りに励^{はげ}みなさい。

ローマ人への手紙^{てがみ}12章12節

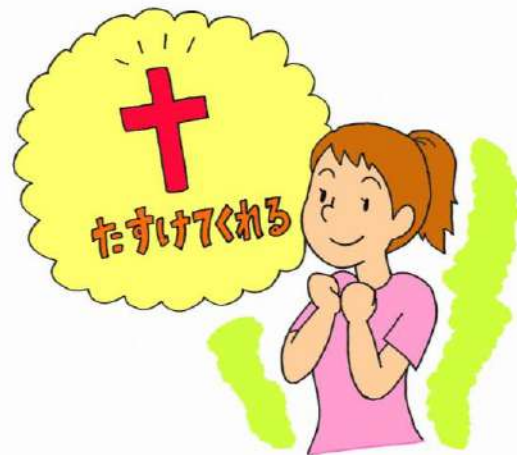
◆メッセージ

あなたには、今^{いま}、どんな苦^{くる}しいことがありますか。いじめられていますか。それとも、誰^{だれ}かと比^{くら}べて自分^{じぶん}にはいいところがないと落ち込んでいますか。また、悪いことをして神さまにごめんなさいと言えないでいますか。生活^{せいかつ}に困^{こま}っているそのような人^{ひと}もいるかもしれません。

この世界^{せかい}に生きていますと、いろいろな苦^{くる}しいことが起こってきます。この世界は人の罪^{つみ}のために歪^{ゆが}んで壊^{こわ}れてしまいました。ですから、お互^{たが}いを大切^{たいせつ}にしたいと思^{おも}っても、かえって相手^{あいて}をいじめてしまったり、自分^{じぶん}のことも正^{ただ}しく愛^{あい}せなくなっています。そして、悪いことをしていてもすぐに謝^{あやま}ることができないのです。生活^{せいかつ}に困^{こま}ることがあるのも、この世界^{せかい}が壊^{こわ}れてしまったからと見ることもできます。ですから、この世界^{せかい}に生きてい^いる限り苦^{かぎ}しいことはいつも続^{つづ}いていきます。

けれども、イエスさまを信^{しん}じる人^{ひと}には望^{のぞ}みがあります。天国^{てんごく}に行くことができるという望^{のぞ}みです。天国^{てんごく}には、苦^{くる}しみ^いのすべてがありません。そして喜^{よろこ}びと神さまへの感謝^{かんしゃ}にあふれています。なぜイエスさまを信^{しん}じれば天国^{てんごく}に行けるのでしょうか。それはイエスさまが人間^{にんげん}の犯^{おか}した罪^{つみ}の罰^{ばつ}すべてを十字架^{じゅうじか}で身代わり^みに負^がってくださったからです。ですから、イエスさまを救^{すく}ぬし主^{ぬし}として信^{しん}じる人^{ひと}は、罪^{つみ}が一切なくなり、必^{かなら}ず天国^{てんごく}に入^{はい}ることができるのです。

ですから、あなたに、今^{いま}、どのように苦^{くる}しいことがあっても、逃^にげないでいましょう。苦^{くる}しいことの中^{なか}で、イエスさまに「助^{たす}けてください」と頼^{たよ}るのです。「祈^{いの}りなさい」ということは、神さまに頼^{たよ}りなさいということです。そして、「祈^{いの}りなさい」と教^{おし}えてくださった神さまは、その祈^きりを聞いていてくださいます。イエスさまをとお^{とお}かみ^{かみ}に神さまにお祈^{いの}りするなら、神さまはあなたを必^{かなら}ず助^{たす}けてくださいます。そうして、苦^{くる}しい中^{なか}でも最^{さい}後^ごまで守^{まも}られるのです。



◆お祈り◆

「イエスさま、天国^{てんごく}に行けるようにしてくださってありがとうございます。どんな苦^{くる}しいことも耐^たえられるようにしてください。」

(京都めぐみ教会牧師 加藤秀典)

12月9日

たびびと
テーマ：「旅人をもてなす」

聖書箇所：ローマ人への手紙12章13節

◆今日のみことば

聖徒の入用に協力し、旅人をもてなしなさい。

ローマ人への手紙12章13節

◆メッセージ

パウロさんからローマにいるイエスさまを信じている人々へのお手紙が続きます。これまで「心からお互いに愛し合うこと」「神さまにいつも従うこと」「絶えずお祈りすること」を学びましたね。そして、今日は、「旅人をもてなしなさい。」ということ学びます。

さて、みなさんもいろんなところに旅行に行ったことがあると思いますが、お家から離れて、特にまだ行ったこともないようなところに行くのはワクワクしますね。そして行った先で親切にしてもらったり、困ったことが起きたら助けてもらったりすると、とてもうれしくなります。

当時、聖書に書かれているローマの時代は、今のようないろんな世の中ではありませんでした。飛行機も車も新幹線もなく、素敵なホテルもありませんでした。旅をするのは、とても大変でした。パウロさんもたくさんの旅をしながら、神さまのお話をたくさんの人にしましたが、船が沈没しそうになったり、悪い人に襲われたり、食べるものがなかったり、寒さで凍えそうになったり大変な目にたくさん会いました。でも、その度に行く先々で、いつも神さまはパウロさんを守ってくださり、いろんな人を通して必要な助けを与えてくださいました。



私たちは今日のみことばからどんなことを学んだらいいでしょう。家に人が泊まりに来たり、一緒に食事したりすることはありますか。そういうお客さんを喜び、嬉しい気持ちを伝えましょう。お友だちにも、持っているものを分かち合うことができますね。

パウロさんは、たくさんの旅の最後にこんなことを言いました。「このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われたみことばを思い出すべきこと。使徒の働き20章35節」。今日も神さまが出会わせてくださる人に対して、愛を与えることができるようにお祈りしましょう。

◆お祈り

「今日出会う人に対して、愛を与えることができるように助けてください。」

(茨木聖書教会伝道師 吉持早稚子)

12月10日

はくがい もの しゅくふく
テーマ：「迫害する者を祝福しなさい」

しょう せつ
聖書箇所：ローマ人への手紙12章14節

◆今日のみことば

あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。

てがみ
ローマ人への手紙12章14節

◆メッセージ

みなさんは、お友だちや周りの人から「教会に行っている」とか「神さまを信じている」ということでからかわれたことはありませんか？このようなことを、難しい言葉で言うと「迫害する」と言います。また、そのようなことをする人を「迫害する者」と言います。神さまや教会のことを悪く言われると、決して良い気持ちはしませんね。しかし、今日の聖書の箇所では「迫害する者を祝福しなさい。」とパウロさんは言いました。パウロさんの時代にも迫害する人がたくさんいました。しかし、そのような人を敵のように思うのではなく、祝福しなさいと言うのです。それはすぐにできるようなことではありませんでした。私たちもそうだと思います。

では、どうしたら、「迫害する者を祝福する」ことができるのでしょうか。

マタイの福音書5章44節～45節に次のように書かれています。「しかし、私はあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。」これは、イエスさまの言葉です。天におられる神さまは、迫害する人にも神さまを信じている人



と同じように祝福してくださるお方です。また、迫害する人も受け入れて、平等に同じように接してくださるお方です。その証拠にパウロさんは、神さまを信じる前は、クリスチャンを猛烈に迫害する人でした。そのパウロさんが天の神さまによって大きく変えられ、聖書のみ言葉を宣べ伝える人になりました。

私たちも迫害する人を受け入れ、お友達や周りの人が、いつか、神さまを信じる人になるように祈っていきましょう。



◆お祈り

「私たちを迫害する人が神さまを信じていることができるようにしてください。」

(茨木聖書教会牧師 吉持日輪生)

12月11日

テーマ：「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣く」

せいしよかしよ
聖書箇所：ローマ人への手紙12章15節

◆今日のみことば

喜ぶ者と一しょに喜び、泣く者と一しょに泣きなさい。

ローマ人への手紙12章15節

◆メッセージ

結婚式のお祝いなどでよく聞く言葉があります。「結婚は、悲しみは半分に、喜びは二倍になることです。」辛いことがあっても、二人で力を合わせて助け合って行けば、半分ずつになります。逆に、嬉しいことがあれば、二人で一緒に喜んで幸せを感じていけば、二倍どころか何倍にも大きくなるからです。

私たちが、何か嫌なことがあって気持ちが暗くなった時、誰もそばに居なかったら寂しいでしょう。でも、誰かがそばに居てくれて「大丈夫だよ」って言うてくれたら、なんだか心がホッとして気持ちも明るくなってくるものです。反対に、何かいいことがあって思わず声を上げたくなった時、やっぱり誰もそばに居なかったらつま

らないでしょう。でも、誰かがそばに居てくれて「よかったね」と言うてくれたら、一緒に感動して踊り出したくなるものです。

イエスさまも、「何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。」と言われました。人が嫌がることをしないのは当然です。でも、自分がしてほしいと思うことから、他の人にもそうしてあげようと思うのは、その人に対する積極的な愛がなければできません。この愛は、どこにあるのでしょうか。それは、イエスさまのところです。

私たちが、この愛をイエスさまからいただいて、周りの人と一緒に喜び、一緒に泣く人になれましょう。



◆お祈り

「私たちが、イエスさまから愛をいただいて、周りの人と一緒に喜び、一緒に泣ける人になれますように。」

(箕面めぐみ聖書教会牧師 山下 亘)

12月12日

テーマ：「善をもって悪に打ち勝ちなさい」

せいしよかしよ
聖書箇所：ローマ人への手紙12章21節

◆今日のみことば

悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

ローマ人への手紙12章21節

◆メッセージ

私が働いている所に、いつも荷物を配達してくれる宅配便のおじさんがいます。そのおじさんが、初めて荷物を運んできたのは2年ぐらい前です。その時の荷物は、インターネットで注文した机でした。おじさんは重い、と文句を言って運んでいました。確かに重いだろうと思いましたが、こちらはお客さんだし、そんなふうに文句言うのはおかしいとも思いました。運び終わって、おじさんは伝票を投げてよこしました。私がサインをして返すと、「ありがとうございます」も言わず、ぶつぶつ文句を言いながら帰って行きました。

それからそのおじさんは、宅配に来るたびに、いやな気持ちにさせるような態度をとるので、私はおじさんのことがきらいでした。それでも、一応口先では、「いつも、ありがとうございます」とこちらから声をかけてはいましたが、おじさんは返事をしてくれることもありませんでした。

ある時ふと、このおじさんは、どこに配達に行ってもこんな態度なんだろうな、そうすると、配達先によっては、怒る人もいるだろうな、怒らなかったとしても、笑顔でありがとうなんて言ってくれる人はいないだろうな、仕事、楽しくないだろうなとも思いました。そして、そうだ、私が笑顔で心から「ありがとう！」と言ってみようと思ったのです。それから、おじさんが配達に来ると、思いっきり笑顔で「ありがとうございます！」というようにしました。でも、返事が返ってくることはありませんでした。この人、耳が聞こえないんじゃないかと思うこともありました。笑顔を向けるのがもったいない、と思うこともありました。でも、続けました。

実はこの頃、おじさんは、私の「ありがとうございます！」に、ぎこちない笑顔でもごもごですが、「ありがとう」と返してくれるようになりました。

いじわるされたいじわるしたくありませんか。悪いことに負けそうになりませんか。神さまは知っていてくださいます。神さまに喜ばれることを選びましょう。



◆お祈り

「私を愛してくださるイエスさまの愛の力によって、悪いことに対して良いことを返すことができますように。」

(西大寺キリスト教会伝道師 森川直子)

12月13日

テーマ：生きるにしても、死ぬにしても

聖書箇所：ローマ人への手紙14章8節

◆今日のみことば

もし生きるなら、主のために生き、もし死ぬなら、主のために死ぬのです。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。

ローマ人への手紙14章8節

◆メッセージ



ピリピで、パウロさんとシラスさんが牢屋に入れられたことがありましたね。その時に二人がしたことは、祈りと賛美でした。死ぬかもしれないというときに、賛美！「今は死にたくない」とか「死ぬのが怖い」とか、思わなかったのでしょうか。

人間は、死んで終わりではありません。生きているときにイエスさまを信じて罪を赦していただいたら、誰でも天国に行けると聖書に書いてあります。それは、イエスさまが私たちの罪のため

に十字架に架かって死に、その罪を取り除いて天国に行けるようにしてくださったからなのです。そして、イエスさまは約束の通りに3日目に甦られました。だから死ぬのを怖がる必要はありません。

どうせ天国に行くのだから、すぐに死んでもいいのでは？いいえ、生きることも、死ぬことも神さまがお決めになることです。神さまが生かしてくださっているのには、意味があります。神さまが死を与えてくださるのにも、意味があります。死ぬ時も神さまがお決めになり、「わたしのもとに来なさい」と神さまのもとに召してくださいます。生きることも、死ぬことも、神さまのみ手の中にありますから、安心ですね。

だから、生かされている今日、神さまを仰いで神さまに喜ばれる歩みをしましょう。神さまが「わたしのもとに来なさい」と言われるまで、命を大切に、力の限り。神さまが、私たちを用いてくださいます。そして、死ぬ時にも、安心して神さまを仰ぎましょう。



◆お祈り

天の神さま、天国に行けることを感謝します。今日も生かされていることを感謝します。イエスさまを信じていないお友だちがたくさんいます。私にイエスさまの事をお話する勇気をお与えください。イエスさまのお名前によってお祈りします。

(家庭教育部編集)

12月14日

となりひと よろこ
テーマ：隣人を喜ばせる

びと てがみ しょう せつ
聖書箇所：ローマ人への手紙15章 1～2節

◆今日のみことば

私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。

びと てがみ しょう せつ
ローマ人への手紙15章 1～2節

◆メッセージ

みなさんには兄弟がいますか。私には弟と2人の姉がいます。私は兄弟の中でも、いとこたちの中でもいちばん最初の男の子でした。おじいさん、おばあさんはとくによろこび、私をかわいがってくれました。おじいさんのひざは私の指定席でした。ほかの子どもがすわっていると、そこをどかせ、自分がすわりました。幼いときには「これはぼくのもの」という気持ちはだいじです。が、私のばあい、それが少し長くつづきました。弟や姉、いとこたちが私をうらんでいたことを知ったのは、ずっと後でした。私にはいちばん近くの人が見えていませんでした。気持ちがわからなかったのです。



教会にはいろいろな人がいますね。勉強のよくできる人やそうでない人。スポーツの得意な人やにがてな人。足のはやい人やおそい人。健康な人や病気の人。事故で足が動かなくなった人もいますし、腕をなくした人もいるかもしれません。外国の人もあります。みんなイエスさまを信じ、私たちの兄弟姉妹なのです。おたがいに、今あの人にはなにが必要なのだろう、私になにをしてほしいのだろう、と考えたいものです。

それだけでなく、世の中には、まだイエスさまを信じていなくても、たくさんの人たちがいます。

イエスさまが私たちの罪をせおってくださいったように、私たちも世界中の人たちの弱さに手をのばし、助け合いたいものです。私たちには、隣りの人たちの必要が見えているのでしょうか。



◆お祈り

私たちの目と心が、となりにいる人たちを見ることができるよう。アーメン。

(鳥取聖書教会牧師 中井堯)

12月15日

テーマ：十字架のことは神の力

聖書箇所：コリント人への手紙第一 1章18節

◆今日のみことば

十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても救いを受ける私たちには、神の力です。

コリント人への手紙第一 1章18節

◆メッセージ

みなさんは友だちの間で意見が合わず、言い争いやけんかになって、先生やお父さんお母さんに相談したことはありませんか。コリントの教会の人たちはそのような経験をしました。自分の方が正しいと言い張る人たちが何人も出て仲間割れし、ひとつになることができなくなってしまったので、教会を開拓したパウロさんに相談したのです。

パウロさんの答えは、パウロさんがコリントで伝えたイエスさまの十字架についてのメッセージ「十字架のことは」によく聞いて従いなさい、というものでした。

神の御子イエスさまは私たちが愛して、私たちの罪を赦すために十字架にいのちを捨て、三日目によみがえられたと、パウロさんから「十字架のことは」を聞いたとき、コリントの人たちは二つの正反対の反応を示しました。それはイエスさまといっしょに十字架につけられた二人の強盗が全く反対の態度を取ったのと同じでした。

十字架で殺された男の話など愚かだといって信じない人たちは去って行きました。しかし、十字架のメッセージに感動し、頑固な心を打ち砕かれた人たちは、平安と喜びと希望に満ちた新しい心に造り替えられました。それはコリントの人たちが「十字架のことは…神の力」であることを経験したときでした。



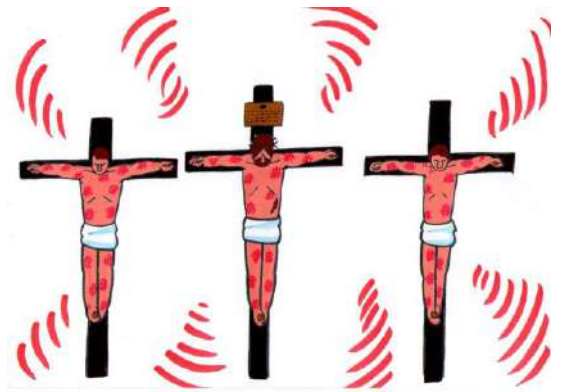
信じた人たちは喜んでいっしょに礼拝し、仲良く交わり、奉仕に励み、証をしてコリントの教会を建ててきましたが、いつの間にかイエスさまの「十字架のことは」を忘れて、まるで自分が偉いかのように思い違いをする人が出てきて、教会を混乱させたのです。

パウロさんはこのみことばを書いてコリントの人たちに「十字架のことは」にある「神の力」を経験したときのことを思い出させようとしてしました。神の力は信じる人の心をますます砕いて柔らかくし、イエスさまのように優しく親切な人に造り替えて行ってくださるからです。

◆お祈り

十字架のことはにある神の力をいただいて、きょうも心を砕かれ、強くされて、他の人々にイエスさまの愛を表せますように。

(生駒めぐみ教会牧師 中谷美津雄)



12月16日

テーマ：成長させたいのは神

聖書箇所：コリント人への手紙第一 3章 6～7節

◆今日のみことば

それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。

コリント人への手紙第一 3章 7節

◆メッセージ

お花を育てたことはありますか。種をまいて、お水をやります。芽が出ると嬉しいですね。太陽にあてて、毎日、お水をあげているうちに、どんどん大きくなってつぼみが膨らんだら、花が咲くのはもうすぐです。一生懸命お世話したかいがありますね。でも、私たちが一生懸命お世話するから、木が大きくなり、お花を咲かせるわけではありません。もし、早く咲いてほしいと、葉をひっぱたり、つぼみを開いたりしたら、どうなると思いますか？残念ながら、枯れてしまいます。それは、お世話をする私たちが、木を大きくし、花を咲かせるわけではないからです。成長させてくださっているのは神さまで。

私たち人間もそうです。お父さんもお母さんも子どもたちのために働き、ごはんを作ってくれます。でも、育ててくださるのは神さまで。神さまは、私たちがいつも神さまといっしょに歩く人、神さまのために働く人となるよう、育ててくださるのです。

教会も同じです。だれがえらい、だれがいちばん、ということはありません。大切なのは救い主イエスさまです。イエスさまを信じさせてくださったのも神さまで。教会にさそってくれたお友だちも、私たちをおしえてくださった先生も、私たちを成長させてくださる神さまのおてつたいをただけなのです。



◆お祈り

私たちを育ててくださってありがとうございます。神さまのご用にやくだつ者になしてください。アーメン。

(鳥取聖書教会伝道師 中井史子)

12月17日

テーマ：神の栄光を現しなさい

聖書箇所：コリント人への手紙第一 6章 19～20節

◆今日のみことば

あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。

コリント人への手紙第一 6章 20節

わたしたちのまわりにあるものは、えんぴつ一本でも、目的があります。えんぴつで、ごはんを食べたり、歯をみがいたりすることはありません。えんぴつは字が書きやすいように、もう500年以上前からたくさんの人たちが工夫してきました。わたしたちが使うえんぴつも外国からえらばれた木や黒鉛という石やねんどからできていて、書きやすいように工場の人がいっしょけんめい作ってくださっています。

えんぴつでもちゃんとした目的があるのですから、はさみだって、じょうぎ、ランドセル、じてんしゃ、パソコンだってどんなものも、たくさんの人たちによって、わたしたちが便利になるように作られてきたのです。



聖書は、わたしたち人間は神さまによってつくられたと教えてくださっています。神さまは、わたしたちをなんとなくつくったわけではなくて、どんな人にも「こんなことをしてほしい」という目的や願いを込めてつくってくださいました。ですから、わたしたちは神さまのものです。



えんぴつがもし、だれかに使われるのはいやだから、自分で何でもしようと思ったとしたら、どうでしょうか。けずることもできないし、字や絵をかくこともできません。わたしたちがえんぴつを持ったときにはじめて、すてきな作文を書いたり、きれいな絵をかいたりできるのですね。

同じように、神さまがわたしたちといっしょに働いてくださるときに、神さまのすばらしい力がわたしたちにもあらわれるのです。それをパウロは、「聖霊の宮」と呼んだのです。

わたしたちがいちばん幸せなことは、神さまがわたしたちに望んでいることができることです。きれいな字を書くためにえんぴつを買うように、わたしたちが神さまの喜ばれることができるようになるために、イエスさまは十字架にかかって罪をゆるし、神さまの子どもにしてくださったのです。うれしいですね。

◆お祈り

神さまの喜ばれることができる人になれるように、どんなときも教えて助けてください。

(西大寺キリスト教会牧師 西村敬憲)

12月18日

テーマ：賞を受けられるように

聖書箇所：コリント人への手紙第一 9章 24～27節

◆今日のみことば

競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように、走りなさい。 コリント人への手紙第一 9章 24節

◆メッセージ

今年の夏は、ブラジルのリオでオリンピックが行われ、もりあがりました。4年後の東京オリンピックも楽しみです。オリンピックはたくさんの競技がありますが、人気の競技は、100メートル走です。



今から約2000年前、パウロさんは伝道旅行をして、たくさんの町でイエスさまのことを伝えました。小アジアの大都市コリントにも1年半の間、伝道して、教会ができました。このコリントの町でも、オリンピックのように大きくはありませんでしたが、スポーツの大会がよく行われていました。そのときも、人気の競技は走る競争でした。



スタートラインに選手が並び、合図とともにいっせいに選手が走り出します。競技の時間は短いですが、賞を受けるために、ゴールを目指していっしょうけんめいに走る選手に、お客さんも声援をおくり、夢中になってしまいます。

パウロさんは、私たちの信仰生活と走る競技が似ていると言っています。

信仰生活のゴールは私たちの人生が終わったときで、そのとき、イエスさまは私たちをすばらしい天国に連れて行ってくださり、イエスさまがよくがんばったね、とほめてくださる最高のおくり物をくださいます。



走る競技で1位の賞をもらえるのはひとりだけですが、イエスさまから賞をいただ



けるのは、イエスさまの喜ぶことをしたひとすべての人です。だれでも。でももし、私たちを救ってくださったイエスさまが悲しむことばかりしたり、また好き勝手なことをしたら、せっかくのごほうびをいただくことができません。

イエスさまは、いのちをかけて私たちを救ってくださいました。そして、最高のおくり物を用意して天国で待っていてくださいますから、そのイエスさまにありがたい気持ちをもち、過ごせたらいいですね。

◆お祈り

弱い自分に負けてしまいそうになるときも、イエスさまを見上げて、イエスさまに喜んでいただける毎日を過ごせまうように助けてください。

(西大寺キリスト教会伝道師 西村麻利子)

12月19日

テーマ： 試練と共に脱出の道も

聖書箇所： コリント人への手紙第一10章13節

◆今日のみことば

あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。

コリント人への手紙第一10章13節

◆メッセージ

「主の祈り」で、「こころみ（試練）に合わせないでください」とお祈りします。ところが思いがけないことがおそってきて、苦しいつらいことがおこってくる場合があります。それは、神さまのゆるしの中にあることです。そして、「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。」と聖書は言っています。



ペテロさんは、ヘロデ王の命令で捕らえられ、牢屋に入れられてしまいました。イエスさまのことを伝え続けていたからです。ヘロデ王は、イエスさまに反対するユダヤ人たちに気に入られようと、ペテロさんを殺そうと決めていました。そんなペテロさんも、私たちと同じように「主の祈り」を祈っていました。イエスさまのみことばに従って、人々に救いの喜びを伝えているのに、牢屋に入れられ、殺されるようなことになってしまいました。神さまは、ペテロさんのことを放っておかれるのでしょうか。



殺されることになっていた前の晩のこと。四人一組のローマ兵士がペテロさんを見張っていました。ペテロさんは、二本の鎖につながれて、二人の兵士の間に寝ていました。突然、主の使いがペテロさんをおこして、連れ出しました。鎖は解かれています。兵士たちは寝ています。牢屋の扉は次々と開いてゆきました。こうして、ペテロさんは、教会のみんなのもとに戻ることができました。真実な神さまはこんな

にすばらしいみわざを見せてくださったのです。

聖書の神さまは、私たちの信仰をためそうとして試練を与えがありますが、神さまのみことばを信じる時に必ず心に平安を与え、勝利の道を備えてくださるのです。

◆お祈り

天のお父さま、私たちが困った時つらい時に、そこから助け出してくださるから感謝します。

(西大寺キリスト教会教師 赤江昭代)

12月20日

テーマ：私を見な^みらってください

聖書箇所：コリント人への手紙第一^{びと てがみだいいち}11章^{しょう}1節^{せつ}

◆今日のみことば

私がキリストを見^みな^みらっているように、あなたがたも私を見^みな^みらってください。

コリント人への手紙第一^{びと てがみだいいち}11章^{しょう}1節^{せつ}

◆メッセージ

少し^{すこ かんが}考えてみてください。「わたしを見て、その通^とりにすると良^いいよ。神さまに喜^{よろこ}んでもらえる人^{にんげん}間になれるよ。」と言う人がいたら、それはどんな人^{ひと}でしょうか？ よっぽど何^{なん}でもできて、優^{やさ}しくて心^{こころ}が強^{つよ}く、立派^{りっぱ}な人^{ひと}のように思^{おも}えますね。またそんな人^{ひと}でないと言^いえない言^{ことば}葉^はのようにも思^{おも}えます。しかし、これを語^{かた}ったパウロさんは自^{じぶん}分のことを「病^{やまい}を抱^{かか}え、体^{からだ}も心^{こころ}も弱^{よわ}く、性^{せい}格^{かく}も激^{はげ}しくて怒^{おこ}りっばい人^{にんげん}間^{かん}」だと言^いっています。

それではどうしてパウロさんは自^{じぶん}分^{ぶん}が弱^{よわ}い者^{もの}であると分^わかっているのに、「あなたがたもわたしを見^みな^みらってください。」と言^いえたのでしょうか？ 神さまの前^{かみ まえ}に自^{じぶん}分^{ぶん}は臆^{おく}病^{びょう}で弱^{よわ}く、失^し敗^{ぱい}してしまうこと、罪^{つみ}深^{ぶか}いということ^{こと}をすなおに認^{みと}め、神さまに頼^{かみ}らなければちっとも毎^{まい}日を過^すぐすことが出来^{でき}ない者^{もの}であること^{こと}を受^うけ入^いれていたのです。だから、そのように言^いえたのです。そして、弱^{よわ}くても失^し敗^{ぱい}してもイエスさまに従^{したが}いたいと心^{こころ}から願^{ねが}っていました。

ですから、パウロさんが言^いった「私を見^みな^みらってください。」ということばは、イエスさまにお

すがりするしか毎^{まい}日を過^すぐすことができない、そんな私^{わたし}の姿^{すがた}を見^み習^{みなら}ってくださいという意味^{いみ}です。神^{かみ}さまは、私

たちを神^{かみ}さまの子^こどもとしてくださり、イエスさまを模^も範^{はん}として生^いきる

ように願^{ねが}っておられます。も自^{じぶん}分の弱^{よわ}さと罪^{つみ}深^{ぶか}さを正^{しょう}直^{じき}に認^{みと}めて

「イエスさま、私の罪^{つみ}を赦^{ゆる}すためにあなたは十^{じゅう}字^{じか}架^かにかかっ

ていました。救^{すく}ってくださったこと^{こと}を感^{かん}謝^{しゃ}します。あなたがいてくださ

らなければ何^{なに}もできません。あなたに見^み習^{みなら}いたいと願^{ねが}っています。どう

ぞよろしく願^{ねが}いします。」とイエスさまにおまかせしてゆくことです。



◆お祈り

きょうもイエスさまに「おまかせします。よろしく願^{ねが}いします」とゆだねることができますように。

(蜷池聖書教会牧師 森田悦弘)

12月21日

テーマ：キリストのからだ

聖書箇所：コリント人への手紙第一 12 章 12～27 節

◆今日のみことば

あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとりとは各器官なのです。

コリント人への手紙第一 12 章 27 節

◆メッセージ

今朝、ごはんを食べましたね。昼になると、またお腹がすいてごはんを食べますね。では、今朝食べたものはどうなったのでしょうか？ 手品で隠したわけでもないのに、食べたものは元の形がなくなりましたね。体の中にある胃と腸で消化されたからです。こうやって必要な栄養が取りこまれて、体を動かしたり、頭を使って考えたりすることができるのです。腸を通して消化できないごみは体の外に出されます。毎日トイレですっきりするでしょう。神さまが造ってくださった人の体って、とてもうまくできていますね。体の器官がちゃんと働いてくれるから、わたしたちは元気に過ごせるのです。目で見えなくても、体にはいろいろな器官がありますね。心臓には、体全体に必要な血を送り出すポンプの役目があります。心臓が止まったら、必要な血が届かなくなって死んでしまいます。とても大事な器官です。でも、心臓が胃や腸に向かって、「お前は体中に血を送ることができないんだ。だめなやつだ」「お前は食べ物のごみを集



めているんだ。オレのほうが大事なんだぞ」と言うのでしょうか。内臓は、そんなことを言ってお互いをばかにすることはありません。心臓には心臓にしか、胃には胃にしかできない役割があります。脳には脳の役割が、足には足の役割がそれぞれあって、それらが組み合わされて、全体でひとつのからだになっています。

聖書は、私たちはみんな、キリストのからだで一人ひとりが器官だと言っています。スポーツや音楽が得意な人もいれば、苦手な人もいます。わいわいおしゃべりする人もいれば、一人で静かにするのが好きな人もいます。みんな違いますね。違っていいのです。いろんな人たちが、それぞれの役割を果たしながら、同じイエスさまのからだとして生きているのです。教会みんなで一つの体であって、かしらであるイエスさまの声を聞き、イエスさまの働きをすることができます。弱そうな人も、苦手なことがある人も、一人ひとりがなくてはならない存在です。お互いに助け合いながら、イエスさまから与えられた役割を果たしていきましょう。

◆お祈り

弱い人も、イエスさまのからだに必要な大切なひとりです。支え合って生きられますように。

(西大寺キリスト教会伝道師 池田雄一)

12月22日

テーマ：ヨセフへの告知

聖書箇所：マタイの福音書1章18～25節

◆今日のみことば

ダビデの子ヨセフ。恐れないうであなたの妻マリヤを迎えなさい。

マタイの福音書1章20b節

◆メッセージ

ナザレに住むヨセフさんは、マリヤさんと結婚する約束をし、まもなく迎える結婚の準備をしていました。しかし、ある日、ヨセフさんは驚くべきことを聞きます。マリヤさんが、お腹の中に赤ちゃんをみごもったというのです。それは、ヨセフさんにとって身に覚えのないこと。マリヤさんに裏切られた、と思ってもおかしくない出来事でした。ヨセフさんは、「正しい人」で、神さまを恐れていましたから、マリヤさんが人々から悪く思われまいと考えました。そしてマリヤさんとの結婚を静かに取りやめようと考えたのです。



そんなことを考えながら横になって、うとうとと眠りにつくと、夢のなかで神さまの御使いが現れて語りかけたのです。「ヨセフさん。恐れないうで、マリヤさんと結婚するのです。マリヤさんは、神さまの力によって、赤ちゃんをみごもったのです。生まれたらイエスという名前をつけなさい。この赤ちゃんこそ、のちに、人々をその罪から救ってくださる救い主なのです」と。目を覚ましたヨセフさんは、御使いを通して語られた神さまのことばに従う決心をします。そして、マリヤさんと結婚するのです。



ヨセフさんは、自分だけで考えているときは迷っていました。しかし、神さまのみことばを聞いたとき、そのみことばにすなおに従ったのです。こうして、救い主イエスさまは、昔から聖書に約束されていたように、ダビデの子孫（ダビデの子ヨセフ）として、この世界にお生まれになられました。神さまのご計画は、神さまのみことばに従う人々を用いて、進められていくのです。

きょう、迷っていることがありますか。神さまは、そのことに、どんなお考えをもっておられるのでしょうか。神さまのみことばに従う道を選ぶように祈りましょう。

◆お祈り

神さま、迷うことがある時にも、神さまのみことばに従う道を選ぶことができるように助けてください。

(小平聖書キリスト教会牧師 大瀧恵理也)

12月23日

テーマ：救い主の誕生

聖書箇所：ミカ書5章2節

◆今日のみことば

ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。ミカ書5章2節

◆メッセージ

もうじき、クリスマスですね。クリスマス、それは、私たちの救い主イエスさまのお誕生のお祝い입니다。バースデーパーティーですね！ クリスマスがちかづいてくると、私たちの心はなんだかうれしくなります。それは、イエスさまがうまれてくださったのが、私たちのためだからです。クリスマスを待つ1か月のことをアドベント・待降節といいます。そして今日は、アドベントの中にある日です。

今日のみことばは、ちょっとむずかしいですね。これはじつは、主イエスさまのお誕生の預言なのです。救い主のお誕生は、ずっとずっとむかしから決められていました。むかしイスラエルの人たちが、このみことばをうけとったとき、イスラエルの人たちは、とてもくるしくて、かなしい中にいました。しかし、くらやみの中にいたとき、神さまはかならず救い主をおくるよ、という希望の約束を与えてくださいました。



今日のみことばに、「ベツレヘム・エフラテ」とあります。町の名前です。聞いたことがありますか？ イエスさまがお生まれになった小さい町「ベツレヘム」ですね。そこから「イスラエルの支配者になる者が出る」とあります。救い主イエスさまです。この預言から700年もたってから、このみことばのとおりになったのです。イエス・キリストのお誕生をきめたのは、だれでしょうか？ そう、神さまです。父なる神さまが、私たちに救い主イエスさまを与えてくだ

さいました。イエスさまは、すべての人の救い主です。私たちも主イエスさまによって救われます。イエスさまはまっくらな心に希望を与えてくださいます。自分ではどうすることもできない罪も、きれいにしてくださいます。そのためにきてくださったからです。「だれにも言えない」、そんな時にもイエスさまを信じましょう。イエスさまは、いつもいっしょにいてくださる神さまです。心からよろこんで、救い主のお誕生をお祝いしましょう。

◆お祈り

父なる神さま。私たちに救い主イエスさまを与えてくださってありがとうございます。私たちが心からイエスさまを信じることができますように。イエスさまを自分の救い主として信じて、イエスさまを愛する子となることができますように。主イエス・キリストのみなによってお祈りします。アーメン



(安中聖書教会牧師 三浦陽子)

12月24日

テーマ：最初のキャロリング

聖書箇所：ルカの福音書2章15～20節

◆今日のみことば

羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部み使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

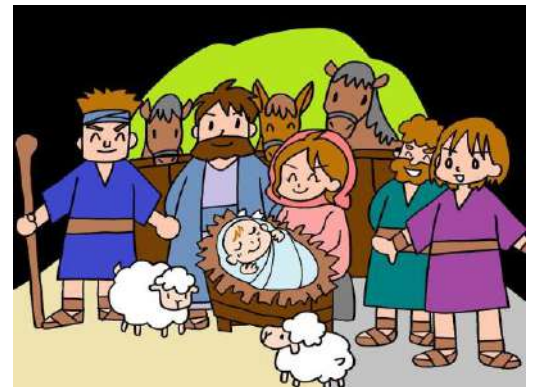
ルカの福音書2章20節

「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」と、天使と多くの天の軍勢の賛美を聞いた羊飼いたちは、どんなにびっくりしたことでしょうか？待ちに待った救い主がお生まれになりました。むかしから約束されていた良い知らせが、今、現実となったのです。このお方が、私たちの罪の身代わりに十字架で死ぬためにこられた救い主です。



早速、羊飼いたちは、救い主イエスさまの誕生を確かめるために、ベツレヘムへ出かけました。どんなにウキウキドキドキしながら、捜し歩いたことでしょう。

いました！いました！天使が教えてくれた通り、飼い葉おけに寝かされているみどりごのイエスさまを探し当てたのです。すべて、天使が教えてくれたみことばの通り！神さまは、みことばで約束してくださったことを必ずしてくださいます。神さまのみことばを聞いて従うことは、喜びとなります。羊飼いたちは、天使の話したことを自分の目で確かめ、本当だと分かるとどんなにうれしく感動したことでしょう。彼らは、救い主の誕生の喜びと感動をもって、町の人々に賛美しながら帰って行きました。これが、最初のキャロリングです。



はじめてのクリスマスの喜びは、天使から羊飼いや、羊飼いから町の人々へ、今では世界中の人々へと賛美をもって伝えられています。私たちも、この喜びの知らせをお友達やまだイエスさまを知らない人々へ伝えましょう。

◆お祈り

天の神さま、天使が教えてくれた救い主イエスさまを喜んで人々に伝えられますように。

(新札幌聖書教会伝道師 金 美栄)

12月25日

テーマ：人となられた神の子

聖書箇所：ピリピ人への手紙 2章 6～11節

◆今日のみことば

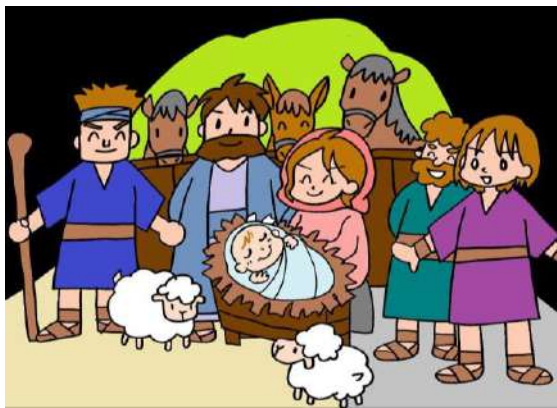
すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

ピリピ人への手紙 2章 11節

◆メッセージ

今日の箇所は、パウロさんがピリピ教会に書いたクリスマスのメッセージ、と言ってもよい箇所です。えっ？どこがクリスマスのメッセージなの？って思ったお友だちもいることでしょう。パウロさんはここでイエスさまがどのようなお方であられるかという事を書いています。皆さんは、「神さまの御姿？」ということ、って考えたことがありますか？

ヨハネの黙示録1:13-17に、栄光のイエスさまのお姿が書かれています。それを見た黙示録を書いたヨハネさんは、その栄光のお姿にびっくりして死んだように倒れてしまいました。イエスさまは、本当はそのような素晴らしいお姿をしておられるのに、私たちがその栄光のお姿にびっくりして倒れてしまわないように「ご自分を無にして」なんでもやってもらわなければならない小さく弱いフニャフニャの赤ちゃんとして、「神の子」であられるのに完全なる「人」となられて、生まれてくださいました。そして「仕える者の姿をとり、人間と同じようになられ」ました。



お医者さんのルカさんが書いていますが、生まれたばかりのイエスさまは、人間が織った布にくるまれ家畜の餌を入れるかいばおけに寝かされました。神さまのお子、世界の救い主だから、すばらしい衣装に包まれ素敵なベッド・・・ではありませんでした。だからこそ貧しい羊飼いたちは、世界で一番最初に救い主イエスさまにお会いする祝福にあずかることができたのです。

イエスさまは、さらに「死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました」とありますが、私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかるために来てくださいました。だから神さまは、イエスさまに「すべての名にまさる名をお与えになりました。」私たちは、満ち満ちた豊かさを持っておられるイエスさまの御名によってお祈りできる恵みが与えられていることを感謝しましょう。

今日はクリスマス！私たちも「すべての口」の中のひとりとして「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神さまをほめたたえましょう！

◆お祈り

神さまのひとり子イエスさまを私たちに救い主としてお与えくださり、ありがとうございます。神さまに感謝してこのクリスマスを過ごすことができますように。



(南柏聖書教会伝道師 菊池真恵美)

12月26日 テーマ：愛は

聖書箇所：コリント人への手紙第一13章1～8節

◆今日のみことば

愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。

コリント人への手紙第一13章4節

◆メッセージ

「愛」とはなんでしょうか？ 男の人や女の人が「好きだよ」と互いに言うのが、聖書でいう愛ではありません。愛は特技を使って何かをすることや、お金をあげたり、さらには、命を差し出すことでもない、1～3節に書かれています。

私たちはすぐに、自分ばかりを大事にしてしまいます。誰かのために何かをやっていると思っていることも、自分はすごいでしょ、役に立つでしょ、という気持ちになってしまったりします。もし相手の人が評価もしてくれないと、「これだけやってあげたのに」と、その人を憎んだりします。「ありがとう」を言ってくれないと、「もうやらない」と思ってしまうのです。

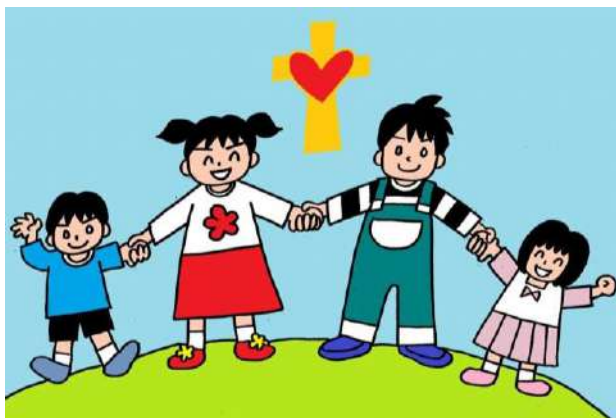
どこまでも寛容で、親切であること。自慢したり、偉そうにしないこと。これは難しいことです。実際に誰かを愛そうとすると、私たちには愛がないことがよくわかります。

どうすれば、この愛を持つことができるのでしょうか。この聖書の愛を100%持っているのは、イエスさまだけです。愛は、相手のことだけを思って、ささげることです。イエスさまは見返りを求めず、私たちのために命をささげてくれました。



このみことばにある「愛」という言葉を、「イエスさま」と置き換えてみましょう。

そうすると、イエスさまのことがよくわかります。イエスさまを通して、愛がわかります。



7～8節「イエスさまは、すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。イエスさまは決して絶えることはありません。」

愛のない私たちをこのようにがまんし、信じ続けて、変わらない愛でイエスさまは愛してくださっているのです。このイエスさまの愛を受け続ける時に、私たちも同じような愛で、誰かを愛することができるようになるのです。

◆お祈り

「イエスさまをもっと知って、同じ愛で、人を愛することができますように。」

(クロスロードチャーチ岡山牧師 後藤哲哉)

12月27日

テーマ：信仰・希望・愛

聖書箇所：コリント人への手紙第一13章13節

◆今日のみことば

こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。

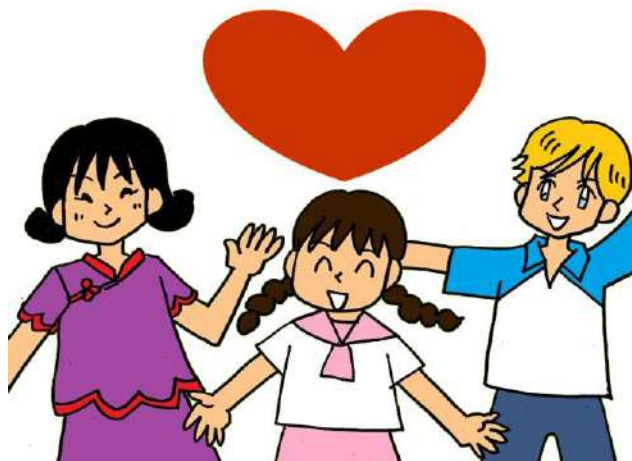
コリント人への手紙第一13章13節

◆メッセージ

あなたにとって、一番大切なことはなんでしょうか。目に見えるお金でしょうか。それとも目に見えない愛情でしょうか。この世の中は、お金があれば何でも手に入る世界です。そのために、多くの人は頑張ってお仕事をし、お金を手に入れます。しかし、いくらお金を支払っても本当の愛情は手に入らないし、私たちの心は満たされないままなのです。

聖書は「人が友のためにいのちを捨てることよりも大きな愛はありません。」と教えています。あなたは、友だちのためにいのちを捨てることができるでしょうか。きっと難しいですね。しかし、私たちのために惜しまずいのちを投げ出したお方がいます。そのお方こそイエスさまでした。イエスさまは、私たちの罪の身代わりに十字架に架かり、死んでくださいました。このイエスさまの愛が、私たちの心を満たします。イエスさまを信じる信仰によって、希望が与えられます。永遠のいのちの希望です。信仰、希望、愛は、どんな苦しい状況にあっても、揺るぎません。

聖書は「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」と教えています。でも目で見ることができません。でも、目で見えるようなものは、やがて壊れて無くなるのです。ですから、聖書は「見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。」と教えています。信仰は私たちに希望を与えます。しかも、この希望は失望に終わることがありません。それは、聖霊なる神さまによって、神さまの愛が私たちの心に注がれているからです。ですから、信仰は希望を与え、見えないものを見せてくれるのです。そして、やがてイエスさまと共に生きるようになるとき、愛があふれ続けます。そのようにいつまでも残るものの中で一番大切なもの、一番すぐれているものが愛です。



◆お祈り「神さまのご愛によって信仰と希望が与えられることを感謝いたします。」

(岡山めぐみキリスト教会牧師 草井琢弘)

12月28日

テーマ：もっと ちい もの 最も小さい者さえも

聖書箇所：コリント人への手紙第一 15 章 9～10 節

◆今日のみことば

ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。

コリント人への手紙第一 15 章 10 節

◆メッセージ

今日の聖書の言葉はパウロさんの言葉です。パウロさんはユダヤ人以外の人に神さまのことを伝える大きな働きをした人です。この人の働きによって神さまの言葉が世界各地に広がっていきました。

そのような働きをしたパウロさんですが、元の名前を「サウル」といい、その名前の時はイエスさまの教えを信じる人たちを捕まえて牢屋に入れていました。ところが、ダマスコという町に行く途中でイエスさまの幻に出会ってからは、180度変わって熱心にイエスさまの教えを伝えるようになりました。その後、イエスさまが選びになった12人のお弟子さんと同じように「使徒」と呼ばれるようになったのですが、パウロさん自身は以前の自分をわかっているで、「自分は使徒と呼ばれる価値のない者です」とはっきり言っています。しかし、自分は最も小さい者だけれど、神さまの恵みによって変えられて、神さまの恵みによって大きな働きをさせていただいた、と神さまをほめたたえています。パウロさんにとっては自分がどうであるかということは問題ではなく、神さまの恵みによって、神さまのお働きがますます広がっていくことが一番大切だったのです。



私たちも小さな者ですが、パウロさんと同じように神さまの恵みによって生かされています。そして、神さまの恵みによって私たちも神さまのために大きな働きができるのです。自分がどうであるかを気にすることはありません。ただ、神さまの恵みをしっかりと受けとめながら歩んでいきましょう。

◆お祈り

「いつもかみさまのめぐみをわすれないで、かみさまのみささえとおみちびきをしんじて あゆめますように。」

(倉敷めぐみキリスト教会牧師 高山正治)

12月29日

テーマ：いつも主のわざに励みなさい

聖書箇所：コリント人への手紙第一15章58節

◆今日のみことば

ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあっても無駄でないことを知っているのですから。

コリント人への手紙第一15章58節

◆メッセージ

みなさんは補助輪のない自転車に乗ったことがありますか。最初は怖くてゆっくりしか進めないで、フラフラしてすぐに倒れてしまいますね。でも慣れてくると、一生懸命にペダルをこいで速く走れるようになります。そうすると倒れずに、まっすぐに進むことができます。信仰生活も同じです。

イエスさまが私たちにするように願っておられることを、最初は上手にできなくても、一生懸命に行い続けていくことが大切です。イエスさまはわたしたちの罪のために身代わりとなって十字架にかかり、死んでくださいました。



そして三日目に死から復活してくださいましたので、

イエスさまを信じる私たちクリスチャンも死んでも永遠の命に復活することができます。そのときイエスさまは、私たちのために義の冠を用意してくださっているのです。

毎日聖書を読み、お祈りし、イエスさまのことをまだ知らない人にイエスさまのことを教えてあげましょう。また悲しんでいる人や困っている人がいたら進んで助けてあげましょう。

◆お祈り

イエスさま、私の罪のために十字架にかかり、死んで三日目に復活してくださりありがとうございます。今日の一日も聖霊さまのお助けをいただいて、イエスさまに喜ばれる歩みができますように。イエスさまのお名前によってお祈りいたします。アーメン

(岡山グレイス・チャーチ牧師 田中幸夫)

12月30日

テーマ：「^{かみ}神さまの^{なぐさ}慰め」

聖書箇所：コリント人への手紙第二^{びと}1章^{てがみだいに}4節^{しょう}～6節^{せつ}

◆今日のみことば

神は、どのような^{くる}苦しみ^{なぐさ}のときにも、私^なたちを^{なぐさ}慰めてくださいます。こうして、私^なたちも、自分^{じぶん}自身^{じしん}が神^{かみ}から受^うける^{なぐさ}慰め^{なぐさ}によって、どのような^{くる}苦しみ^なの中^{なか}にいる人^{ひと}をも^{なぐさ}慰めることができるのです。 コリント人への手紙第二^{びと}1章^{てがみだいに}4節^{しょう}

◆メッセージ

おとなでも^こ子ども^{ども}でも、つらいこと、かなしいことがあります。^{なか}仲よく^{とも}していた友^{とも}だちからのけものに^{しん}されたり、信^{しん}じていたのに^{かぞく}だまされたり、家^わ族も^{ひとり}分^{ひとり}かってくれなくて^{ひとり}一人^{ひとり}ぼっちで^{ひとり}どうしていいの^わか^わからない^{とき}時^{とき}があります。誰^{だれ}かに^{そうだん}相談^{そうだん}しても^わ分^わかってもらえなくて、よけいに^{かな}悲^{かな}しい^き気^き持^もちになる^{こと}事^{こと}もあります。

また、とつぜん、高^{たか}い^{ねつ}熱^でが^{びようき}出^でて病^{びようき}気^きにな^なったりします。^{なんにち}何^{なん}日^{げつ}も^{ひとり}何^{ひとり}ヶ^{にゅういん}月^{にゅういん}も^{ひとり}一^{ひとり}人^{ひとり}で^{ひとり}入^{にゅういん}院^{にゅういん}して、つらい^{けんさ}検^{けんさ}査^{ちりょう}や^う治^う療^{りょう}を受^うけなければ^{なり}ませ^なせん。「ほかの人^{ひと}たちは、学^{がっこう}校^いに行^いったり、あそ^{あそ}び^{あそ}んだり、たの^{たの}しくす^ごしたりしているのに、どうして私^{わたし}だけ^{わたし}こんな^{わたし}につ^{わたし}らいの^{わたし}だ^{わたし}らう。」など^{わたし}思^{わたし}います。

そんな^{とき}時^{とき}、「イエスさま、助^{たす}けてください。」^{いの}っ^{いの}てお祈^{いの}りして^{いの}みて^{いの}ください。ありとあ^{くる}らゆる^{くる}苦^{くる}しみ^{くる}を^{けいけん}経^{けいけん}験^{けん}し、私^{わたし}たちを^{だれ}誰^{だれ}より^{あい}も愛^{あい}し、^わ分^わかって^わくだ^わさる^わイエスさまが、「わたしが、いつも^{とも}共^{とも}に^{とも}いて^{とも}守^{まも}って^{まも}あげる^{まも}から^{まも}もう^{まも}だい^{まも}じょう^{まも}ぶ、しん^{しん}ばい^{しん}し^{しん}ない^{しん}で^{しん}いい^{しん}よ。」と^い言^いって^いくだ^いさい^います。イエスさまは、わたしたちの^{こころ}心^{こころ}や^{おも}思^{おも}い^{おも}を^{ささ}支^{ささ}えて、^{たす}助^{たす}けて^{たす}くだ^{たす}さい^{たす}ます。もう^{あんしん}安^{あんしん}心^{あんしん}です。イエスさまを^{しん}信^{しん}じて、イエスさまが^{こころ}よ^{こころ}ろ^{こころ}こ^{こころ}ば^{こころ}れる^{こころ}心^{こころ}です^{こころ}ご^{こころ}し^{こころ}ま^{こころ}し^{こころ}よ^{こころ}う。

またお友^{とも}だちが^{おな}同^{おな}じ^{おな}じ^{おな}う^{おな}に^{おな}苦^{くる}し^{くる}ん^{くる}で^{くる}いる^{くる}時^{とき}、自^じ分^{ぶん}も^{じぶん}つ^{じぶん}ら^{じぶん}い^{じぶん}こ^{じぶん}と^{じぶん}を^{たいけん}体^{たいけん}験^{けん}した^{たいけん}ので^{たいけん}お^{とも}友^{とも}だ^{とも}ち^{とも}の^{とも}苦^{くる}しみ^{くる}、つ^きら^きい^き気^き持^もち^もが^きよ^きく^き分^{ぶん}か^{ぶん}り^{ぶん}ま^{ぶん}す。お^{とも}友^{とも}だ^{とも}ち^{とも}の^{こころ}た^{こころ}め^{こころ}に^{こころ}心^{こころ}か^{こころ}ら^{こころ}祈^{いの}り、イエスさまと^{たす}い^{たす}っ^{たす}し^{たす}ょ^{たす}に^{たす}助^{たす}けて^{たす}あ^{たす}げ^{たす}る^{たす}こ^{たす}と^{たす}が^{たす}で^{たす}き^{たす}る^{たす}人^{ひと}に^{ひと}して^{ひと}い^{ひと}た^{ひと}だ^{ひと}き^{ひと}ま^{ひと}し^{ひと}よ^{ひと}う。



◆お祈り

「時々、心^{こころ}が^{ときどき}く^{こころ}じ^{こころ}け^{こころ}そう^{こころ}になる^{こころ}ほ^{こころ}ど^{こころ}つ^{こころ}ら^{こころ}い^{こころ}こ^{こころ}と^{こころ}や^{こころ}悲^{かな}しい^{かな}こ^{かな}と^{かな}が^{かな}あ^{かな}ります^{かな}が、イエスさまに^{いの}お祈^{いの}り^{いの}して^{いの}助^{たす}けて^{たす}い^{たす}た^{たす}だ^{たす}く^{たす}事^{こと}が^{こと}出^で来^きま^きす^きよ^きう^きに^き・・・」

(岡山グレイスチャーチ伝道師 田中恭子)

12月31日

えいこう えいこう
テーマ:「栄光から栄光へ」

聖書箇所: コリント人への手紙第二 3 章 16 節～18 節

◆今日のみことば

私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。 コリント人への手紙第二 3 章 18 節

◆メッセージ



モーセさんはいつも、神さまとお話しをしていました。するとモーセさんの顔が輝きました。それを見たイスラエルの人たちは、あまりのまばゆさにこわくなって彼に近づくことができなくなりました。そこでモーセさんは、他の人々とお話しする時には、顔を布で隠していました。モーセさんはどんなふうに輝いていたのでしょうかね。

モーセさんのように輝きたいと思いませんか。でも、「自分には無理」と思ってしまっていないですか。うそを言ったり、ごまかしたりすることがあります。お友だちとけんかしたり、約束を守らないこともあります。やめようと思っても、また同じことをしてしまいます。どうして同じことばかり繰り返してしまうのだろうと悩みます。

聖書は、聖霊なる神さまによって私たちは変えられると約束しています。私たちはイエスさまを信じました。その時に、私たちは救われ、心の中の罪がゆるされ、きよい心があたえられます。それと同時に、私たちの心の中に聖霊なる神さまが住んでくださいました。すべてのクリスチャンの心に聖霊なる神さまが住んでおられます。私たちが祈る時に、聖霊なる神さまが私たちの心の中で働いて、私たちは毎日少しずつ、内側からイエスさまに似るように変えられていきます。感謝ですね。イエスさまに似る輝きは、どんなに素晴らしいことでしょう！楽しみに祈っていきましょう。



◆お祈り

「聖霊なる神さま。私の心の中で働いてください。私を内側から変えてください。」

(東岡山キリスト教会牧師 中尾芳也)